

年頭所感

公益社団法人 日本防犯設備協会 常任理事 **平湯 大洋**
(パナソニックシステムネットワークス株式会社
システムソリューションズジャパンカンパニー
公共システム本部 公共推進室)



謹んで初春のお慶び申し上げます。

日頃より、会員の皆様には当協会の活動へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は昨年6月より前任の尾崎理事の後を受けて当協会の運営幹事会幹事を勤めさせていただいております。まだまだ至らぬことが多く、会員の皆様方に助けていただきながら、この半年何とか努めさせていただきました。本年も引き続き皆様方の更なるご支援、ご協力のもと、協会活動を盛り上げていきたいと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

さて、本年は当協会が設立されて30年という節目の年であります。設立された1986年はバブル真最中の年であり、当時を振り返ってみますと、大きな出来事では、スペースシャトル「チャレンジャー」の打ち上げ後の爆発事故、チェルノブイリ原発事故、東京サミット開催、英皇太子夫妻来日(ダイアナフィーバー)、NTT株売り出し、伊豆大島三原山大噴火等がありました。また、流行語としては、「新人類」「亭主元気で留守がいい」「やるしかない」などがあり、この年にはファミコンソフト「ドラゴンクエスト」や使い捨てカメラ「写ルンです」が発売されました。

当時の時代感、世相イメージ出来ましたでしょうか。設立当時と大きく時代は流れているわけですが、私たちが直面している安全・安心の重要性は、社会的にも個人的にも軽減されているわけではなく、ますます高まってきており、さらにリスク度が増していると感じております。

昨年のフランス・パリをはじめとする世界各地でのテロ続発の中、我が国で世界的イベントとしての本年5月の「伊勢・志摩サミット」、2019年の「ラグビーワールドカップ」、2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」が準備・開催されてまいります。テロ対策は勿論、高齢者・児童・幼児の見守り、外国人観光客2000万人時代の到来と「おもてなし」の一環としての安全・安心対策、犯罪のグローバル化、温暖化による気象異常に伴う自然災害など、防犯機能、監視機能としてのカメラ、レコーダー、照明等のニーズは高まり、当協会の安全で信頼できる防犯設備等の普及活動は、ますます重要になってくると確信しております。

また、東京オリンピック・パラリンピックは一過性のイベントではなく、その後に繋がるレガシーの創造だとも言われ

ております。大会運営のための安全・安心への新しいソリューションが次世代の防犯・監視システムへ繋がっていくものと推察できます。本年から続く国際的なイベントを通じて、安全安心のレガシーを築いていくために、企業・業界は勿論、協会としてもハード・ソフト両面から皆様とともにジャパンの安全・安心への貢献に繋がる1年になりますよう努めて行きたいと考えております。

これまでの協会活動のRBSS認定制度では、会員皆様の地道な活動の成果として、自治体及び金融関係等での発注仕様にRBSS仕様がうたわれる様になり、昨年は認定申請の数そのものも前年を大きく上回りました。内容につきましても、360°全方位カメラの認定基準追加など新技術への対応もワーキングメンバーのご努力のもと鋭意進めてきております。

また、防犯設備士制度についても受験者数が前年越えての応募があり、近年の減少傾向に歯止めがかかったと感じております。本年から資格更新制度もスタートし、防犯機器の仕様高度化に即したスキルアップを図り、まさに頼れる「防犯設備士」というステータスづくりをめざしてまいります。

安全・安心が日本の国としての魅力であり続けるために、抑止力として防犯・監視システムの性能高度化と、設計・施工含めたトータルなソリューションの展開を支える機関として、警察関係者、地域協会、関係諸団体の皆様のご支援をいただきながら「日本防犯設備協会」の新たな1ページのスタートの2016年になるよう協会活動の充実を図ってまいります。

2016年は、十干十二支で丙申の年です。これは丙が火を、申が金(金属)を象徴し、火が金を溶かし形を変えするという新しいものを創り出す年とも言われるそうです。当協会にとってこの丙申の年が創造の1年となり、発展への礎の年になりますよう微力ながら精一杯協会活動に取り組みたいと存じます。

年頭にあたり、会員皆様の本年の更なるご支援・ご協力をお願いするとともに、皆様のご多幸・ご健勝並びに関係諸団体様、協会会員企業様の益々のご発展を祈念し挨拶とさせていただきます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。